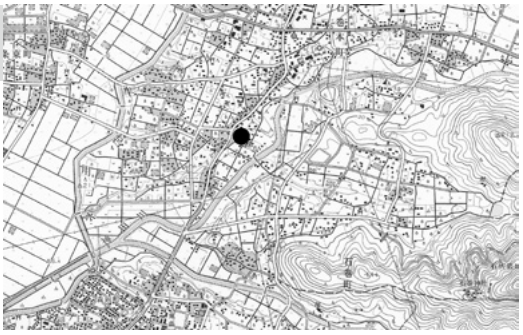
範囲確認調査　野添（のぞえ）遺跡

所　在　地　豊橋市石巻本町野添・西下地
（北緯34度47分55秒 東経137度26分15秒）
調 査 理 由　道路改良工事（主）東三河環状線
調 査 期 間　平成24年６月
調 査 面 積　200㎡
担　当　者　松田　訓・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は、主要地方道東三河環状線改良工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。遺跡のうち事業対象地となる約2,000㎡に対して2m×10mを基本とするトレンチを総数19か所設定し範囲確認調査を実施した。過去には県道北側の玉川小学校地内で昭和57年度（1982）に豊橋市教育委員会が発掘調査を実施している。

立地と環境　遺跡は、豊川左岸の河岸段丘上に立地し、その南縁は石巻山方面から西流する神田川右岸に接する。神田川沿いの低地には昨年度当センターが10,630㎡を発掘調査した東下地遺跡が立地する。

調査の概要　今回の調査では、事業地の縁辺に沿って16か所のトレンチを設定し、さらに撹乱などの状況を確認するために事業地中央にも3か所のトレンチを設定した。うち北端（T.T.1）のみが全長20mと長くなっている。地層は、表土・包含層を約50cm掘り下げると基盤の黄褐色礫混じシルト層があり、その上面で遺構検出が可能であった。結果、ほぼ全てのトレンチで遺構・遺物を検出し、古代・近世を中心とする各時代の遺構がほぼ全面に残存していることが予想された。

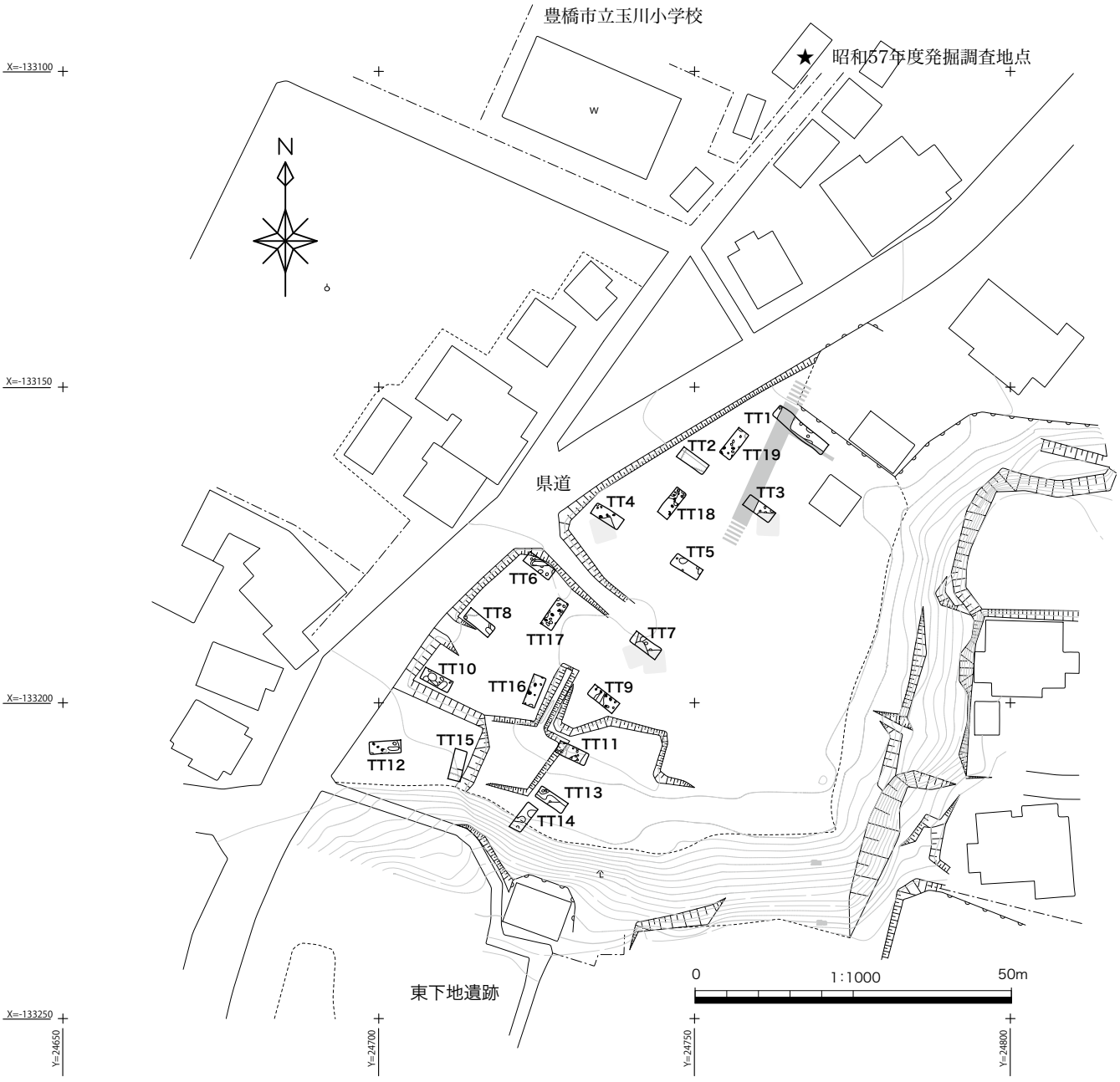
T.T.1では中世から近世とみられる幅約2mの大溝が検出された。断面は箱薬研に近く、屋敷地区画としてもそれなりの格であったと思われる。この大溝は南へ延びてT.T.3でも一部が検出されている。T.T.3では明瞭な竪穴建物の隅部が検出された。上位の包含層からは8世紀末から9世紀前半の須恵器が多数出土した。このような竪穴建物の遺構はT.T.7、やや不明瞭ながらもT.T.4でも検出されており、台地上に広く展開しているものと思われる。T.T.4・9・12・16～18では掘立柱列が検出されたが、遺構内は掘削していないので時期は不詳である。概ね古代と近世の可能性が考えられる。T.T.14は南縁斜面にかかるトレンチであるが、台地上から造成などで崩落した土の中に古代の須恵器・灰釉陶器が多数含まれていた。しかし同様にして設定したT.T.15では、唯一遺構・遺物ともに検出できなかったが、基盤層の断ち割りを実施し、上位の粘土層から下位の円礫層までを確認した。T.T.2・8など県道沿いのトレンチでは削平や撹乱もみられたが、概ね基盤層の状態が良く、ここでも遺構が濃密に展開する可能性が高い。

過去の発掘調査では、当該地点より北側で中世末・近世初頭の遺構・遺物が検出されている。このことから、台地奥部まで近世集落の広がりが想定されていたが、今回の調査では、台地縁辺近くで平安時代を中心とする時期の古代集落が展開している可能性が高まった。また、遺物には古墳時代初頭のものも若干含まれるので、当該期の遺構も想定される。

（永井邦仁）

全景（南西から）

TT03（南東から）



野添遺跡範囲確認調査トレンチ配置と成果概要